

平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 特定非営利活動法人 日本で最も美しい村連合

事業名称 日本で最も美しい村ヘルスツーリズム推進事業（テーマ：緑の分権改革関係）

1 事業の目的

日本で最も美しい村を構成する39地域は、北海道から沖縄までに分布している。かつ「村」という特性が示すように、その多くが都市部のマーケットから離れている。このような条件の中で地域活性化を図るには、ICTの有効活用が極めて有効である。

そこで、「日本で最も美しい村」連合の39地域は、自ら「村の良さ」を守り経済活力を創出していくために、「地域性を活かしたヘルスツーリズム産業」の構築に取り組むこととする。そもそも、連合を構成する地域には、農漁村文化、多様な食文化、温泉湯治の文化を持つところも多いため、このような地域特性を生かすものである。

この促進に当たっては、ICTが持つ非地域性、即時性、低コストを活かし、様々なジャンルのプロが持つノウハウを全国の「村人」に共有することで魅力のあるツーリズム産業の人材育成と質の向上を目的とした。

2 事業の概要

事業の中心は、「リーディングモデルの開発」と「コンテンツ開発システムの構築」である。

- ◎ 日本で最も美しい村連合ならではのヘルスツーリズムを推進するためのリーディングモデルの活動形成（北海道美瑛町、山形県大蔵村、熊本県南小国町）
- ◎ 健康や食、旅行などのアドバイザーチームの形成を図り、リーディングモデル地域のアドバイス活動を通じたヘルスツーリズムのコンテンツ開発プロセスの品質向上
- ◎ リーディングモデル3地域の取り組みを通じて得られたナレッジを、美しい村連合を構成する関係地域(平成23年7月現在39地域)でも共有できるコンテンツ開発システムの構築

3 事業の実施概要（詳細は次ページ以降参照）

本事業においては、以下の3つのプロジェクトをした。

- ①**リーディングモデルの開発**:大蔵村、南小国町、美瑛町の3地域にて、美しい村連合各所の地域資源を活かしたヘルスツーリズムに関する着地型旅行商品作成プロジェクトを実施。
- ②**ICTシステム開発「連合ヘルスツーリズム開発システム」**:ヘルスツーリズムを推進するためのプログラムの構築
- ③**アドバイザーチームの構築**
医療、健康、食などのヘルスに関わる専門家、魅力ある地域づくりやツーリズムに関する専門家、サポーター企業のネットワーク構築。

I 人材育成・活用成果

1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

① ICT人材の育成人数

今回の事業において育成したICT人材の人数及びその大まかな属性は、以下のようになっている。

	育成人数	属性
美瑛町 地域協議会	20名以上	びえい白銀温泉観光組合（旅館及びホテル5名） 宿部会（ペンション2名） 自転車愛好家・ガイド等（6名） 商工事業者（3名） スポーツ系NPO（1名） 公共施設・行政（3名）
大蔵村 地域協議会	13名以上	肘折地区代表 大蔵村観光協会長 肘折温泉郷振興(株)代表取締役 肘折温泉旅館組合長 大蔵村観光協会誘客推進委員長 肘折温泉旅館組合青年部 肘折温泉旅館組合青年部 肘折温泉旅館組合青年部長 肘折温泉商店組合青年部 肘折温泉旅館組合青年部 最上国際湯治交流研究会主任研究員 大蔵村
南小国町 地域協議会	15名以上	南小国町観光協会 南小国町観光協会 商工会青年部 (株)きよらカアサ 南小国町観光協会 南小国町観光協会 黒川温泉青年部 黒川温泉青年部 商工会青年部 百姓いっき 百姓いっき 農花の会 山みず木 南小国町役場総務課 南小国町役場産業振興課

日本で最も美しい村・連合加盟 39 地域	39 名以上 (日本で最も美しい村・連合加盟地域の担当者)	(加盟地域担当者リスト) 北海道 美瑛町、赤井川村、標津町、鶴居村、京極町 秋田県 小坂町、東成瀬村 山形県 大蔵村、飯豊町 福島県 北塩原村、飯舘村 群馬県 昭和村、中之条町伊参 長野県 大鹿村、木曽町開田高原、中川村、南木曽町、小川村、池田町、高山村 山梨県 早川町 岐阜県 白川村、下呂市馬瀬 京都府 伊根町 奈良県 曽爾村、十津川村 岡山県 新庄村 鳥取県 智頭町 島根県 海士町 徳島県 上勝町 愛媛県 上島町 高知県 馬路村 福岡県 八女市星野村 長崎県 小値賀町 熊本県 南小国町 宮崎県 高原町、綾町 鹿児島県 喜界町 沖縄県 多良間村  担当者会議（4月28日、東京・虎ノ門にて）
-----------------------------	--	--

② ICT人材の育成方法

ICT人材の育成は、以下のように取り組んだ。

《ICTを活用したヘルスツーリズム展開の基本原則》

本事業を通じてヘルスツーリズムを展開していく基本原則は、以下のように整理した。

■美しい村ならではの「登録地域資源」を活かす。

- 連合に申請登録している地域資源の活用
- 美しい里山・美しい里海の空間活用
- 農業・漁業などのなりわい・恵みからもたらされる美味しい食
- 世界連合加盟を契機に、海外からお客様をお迎えできるアメニティ・おもてなしの向上
- 連合加盟地域で、共通に得られるコンテンツ・クオリティの水準確保
- ツーリズムマーケットのイニシアティブを握る女性の感覚で、美しい村のおもしろさを活用

■ヘルスツーリズムの取り組み自体が、

- 地域資源を磨くきっかけ、美しい村づくり活動となる。
- 食文化の向上、アメニティの向上、おもてなしの向上、景観の向上に繋がる。

■外部の方々だけでなく、住民にとっても「健康」の向上に繋がる。

- 自分たちが地域を楽しむきっかけとなる。
- 自分たちで、継続的に取り組める。(7月で終わらない)

《「日本で最も美しい村」連合が考えるヘルスツーリズムとは》

「日本で最も美しい村」連合が考えるヘルスツーリズムは、下記のように整理した。

「日本で最も美しい村」の魅力は、

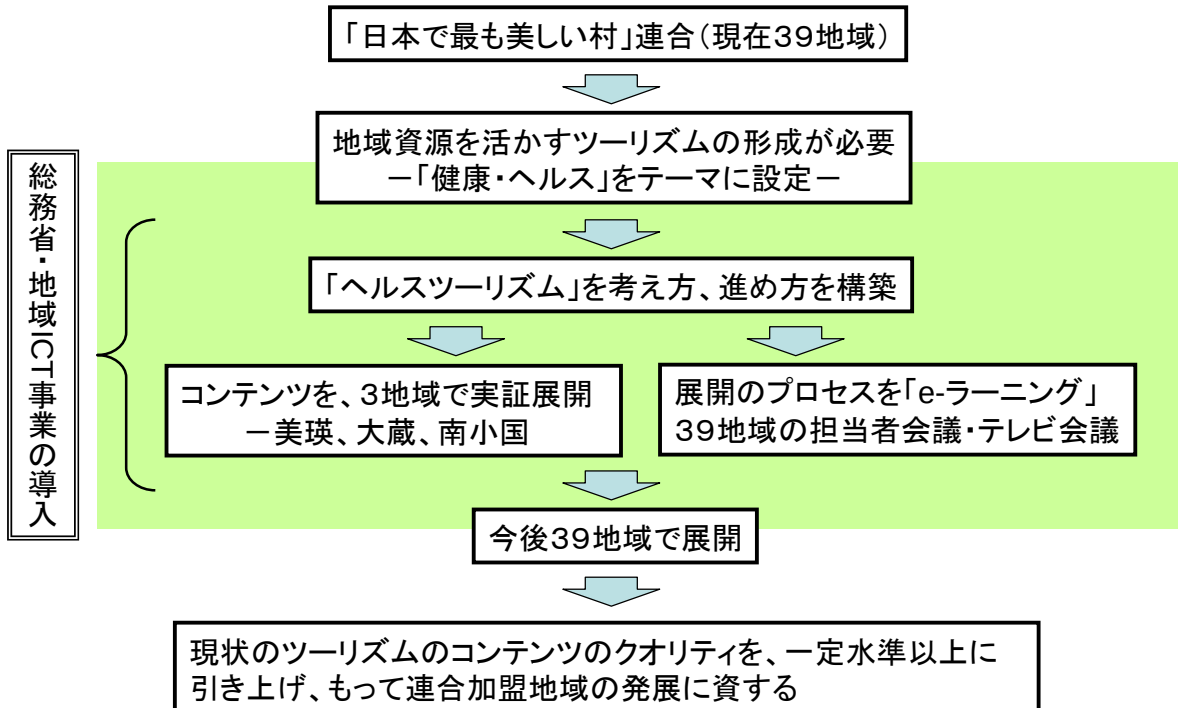
- ◆その時に、そこにいなければ出会えない美しい風景
- ◆その大地、その海が育んだ美味しい食材
- ◆美しい村に生きてきた村民の心・おもてなし

「日本で最も美しい村」に出かけたとき、
かけがえのない時間を過ごすことよって、
自らの感性を広げ、自らの体が持つ生命力を思い出す。

大地に生きていることを実感する旅が、
「日本で最も美しい村」連合の考えるヘルスツーリズムです。

《ICT人材育成の全体構成》

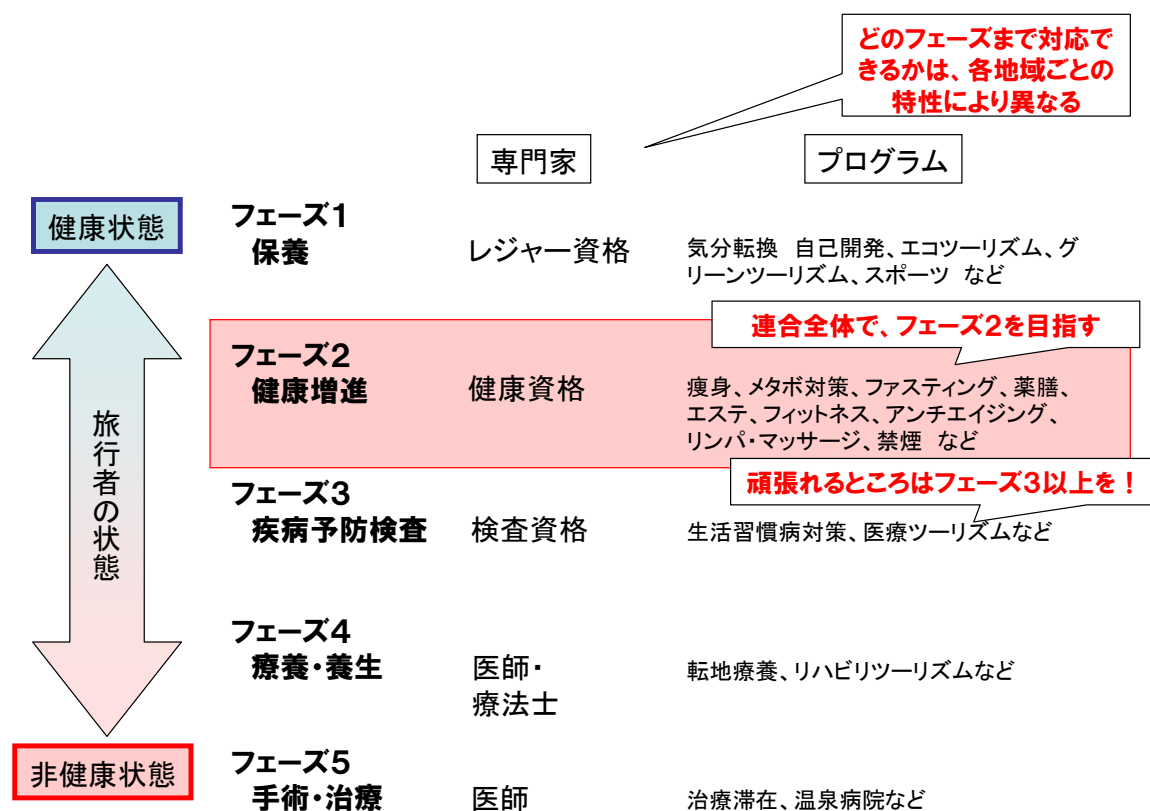
本事業によるICT人材育成の全体構成は以下のように組み立てた。



(解説)

- NPO法人「日本で最も美しい村」連合は、平成22年度時点で全国39地域が加盟している。
- これまで5カ年の活動を積み重ねることで、当初7地域でスタートした活動も全国39地域に広がった。このことは、社会的な美しい村の認知度向上につながる一方で、個々の美しい村の観光面での活性化や相互のネットワークの促進が課題となっていた。
- これらの課題を解消するには、加盟各地域が外部の助力を得ながら個々の活動を促進したり、連合ならではの相互交流を活性化させたりすることができるネットワーク力のスキルが高いICT人材が必要である。
- このため、まず加盟39地域の担当者に対し、ICTのスキルを高めるための取り組みを進めた。本事業期間中においては、4月に全国の担当者が東京に集まり研修を行ったほか、日常的に事務局（美瑛町）を中心として、ヘルスツーリズムに関する情報交換や情報収集を行った。
- リーディングモデル地域としては、北海道美瑛町、山形県大蔵村、熊本県南小国町を選定し、各地域においてヘルスツーリズムの体制構築とコンテンツ開発を進めた。
- これらの現場における取り組みと同時進行で、事業修了後に継続的にヘルスツーリズムのコンテンツ開発を行うためのシステム（UNS）の構築を行った。

《今回のシステムを用いて展開するICT人材のコンテンツルのフェーズ設定》
 連合全体として、「フェーズ2『健康増進』」を目標に、人材育成を進めた。



- 『健康・ヘルス』には、上記のようなフェーズが設定できる。日本で最も美しい村連合では、その人材育成において、『フェーズ2』を基本的な目標に定め、コンテンツ開発の活動を促進させた。

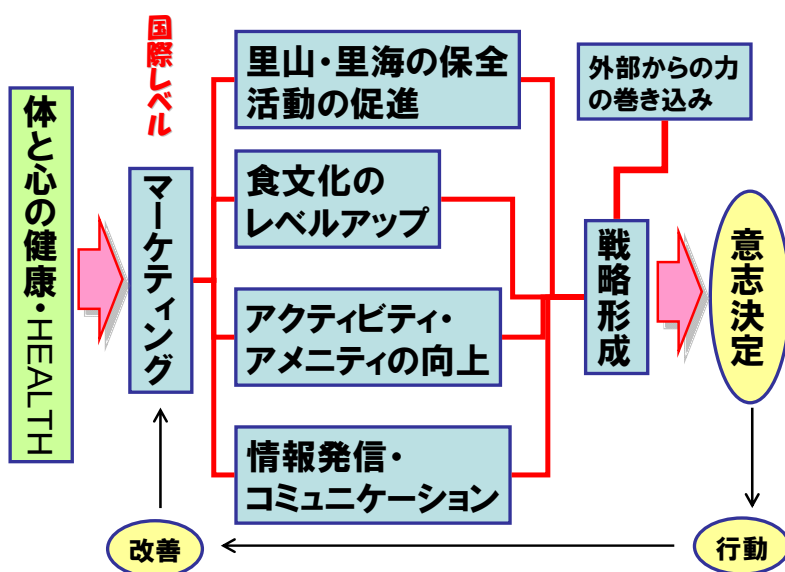
■加盟 39 地域に対する取り組み

《基本的枠組み》

誰が	コーディネーター 山田泰司 アドバイザー 宮地元彦（国立健康栄養研究所健康増進研究部） 三島和夫（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所・精神生理研究部部長）脳病態統合イメージングセンター・画像診断治療研究部部長（併任） 菊池真由子（管理栄養士） 飯塚裕三、柳川尚子（財団法人健康・体力づくり事業財団）
対象	NPO法人「日本で最も美しい村」連合の加盟 39 地域
カリキュラム・教材	教材－「日本で最も美しい村」連合におけるヘルスツーリズム （内容） ステップ1 日本で最も美しい村の目指すべき姿の再共有 ステップ2 日本で最も美しい村の考えるヘルスツーリズムとは ステップ3 ヘルスツーリズムのコンテンツ開発のためのネットワークシステムの構築について
手法	加盟地域担当者を集めた「担当者会議」にてワークショップ形式で推進 日本で最も美しい村連合が考えるヘルスツーリズムの基本的内容（部分抜粋）を以下に掲載する。

《カリキュラム構築における基本的視点》

日本で最も美しい村に加盟している地域には、人と自然の関わりの中で育まれた「里山」、「里海」が特長である。一方、日本の地方部の多くが疲弊する中で、加盟地域では、地域資源を活かした観光振興等に取り組んでいる。この観光振興を促進させるための基本的な展開は、下図のように組み立てている。これらの取り組みを一つずつ着実に行うためには、ICTを用いてネットワークを構築し、その間形成を強化することが重要である。本事業により開発を進めている美しい村ネットワークシステム（UNS）は、連合加盟地域が観光等による活性化を推進するための支援システムである。

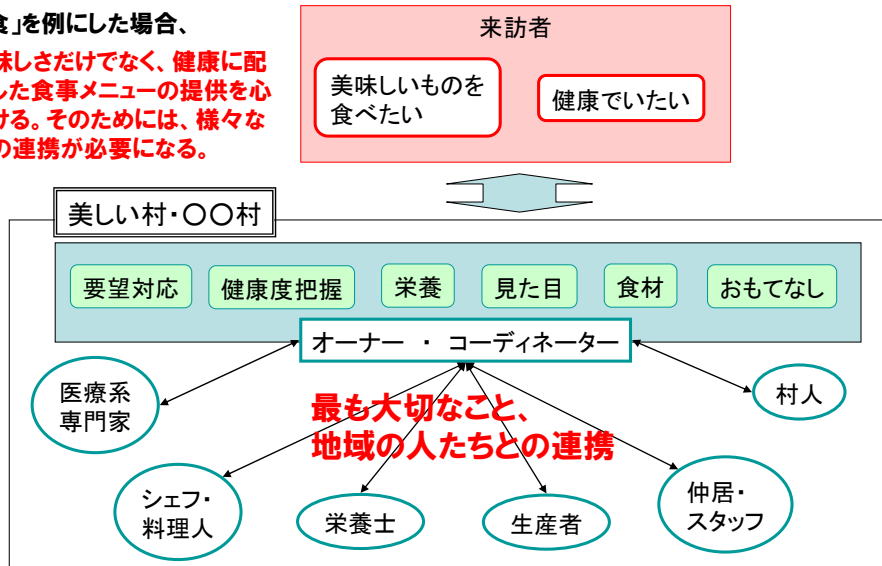


《地域の人々との連携・ネットワークの重要性》

ヘルスツーリズムを推進していくためには、一つのプログラムの中にも様々なステークホルダーが関与する。（下図参照）それぞれのステークホルダーがヘルスツーリズムのコンセプトのもとで連携しなければ、来訪者（観光客）に楽しんでももらえず、結果として観光振興につながらない。美瑛町、大蔵村、南小国町のリーディングモデルの推進にあたっては、協議会組織を構築しながら進めた。その際には、直接的・間接的に関係する人材に働きかけ、地域力を形成していく取組となることに心がけた。

「食」を例にした場合、

美味しさだけでなく、健康に配慮した食事メニューの提供を心がける。そのためには、様々な人の連携が必要になる。



《事業展開の基本的な流れ》

次頁図は、本事業の全体の流れを示すものである。日本で最も美しい村連合のこれまでの活動から抱えている様々な課題に対し、「地域ICT活用広域連携事業」を用いることにより解消が期待される内容について、連合関係者、アドバイザーなどの助力により、3つのリーディングモデル地域で具体的な展開を行った。それぞれの現場から得られたノウハウは、その後、連合に加盟する全地域で共有できるように、システム開発（UNS）にフィードバックを行った。



NPO 法人

「日本で最も美しい村」連合

平成二十二年度
地域ICT活用広域連携事業

連合活動を発展させる上での様々な課題

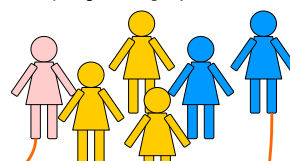
- ◇ 連合としての共通展開テーマ
- ◇ 全国の加盟地域のネットワーク
- ◇ リーディングモデルの形成
- ◇ フランス・イタリアなどとの連携



支援

- 加盟地域の健康要素を地域資源とした「ヘルスツーリズム」の展開
- 加盟地域におけるコンテンツ開発 ICT 支援システムの開発

アドバイザー

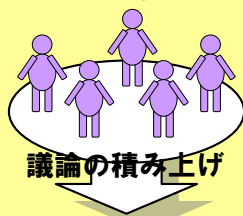


アドバイザーの派遣

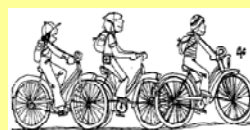
北海道
美瑛町



協議会の形成



議論の積み上げ



コンテンツ開発

山形県
大蔵村



協議会の形成



議論の積み上げ



コンテンツ開発

熊本県
南小国町



協議会の形成



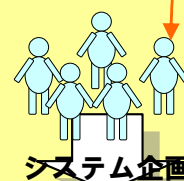
議論の積み上げ



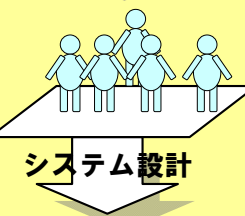
コンテンツ開発

現場の経験をシステム開発に
フィードバック

システム
開発



システム企画



システム設計



システム開発

平成23年7月末

日本で最も美しい村連合ネットワークシステム構築

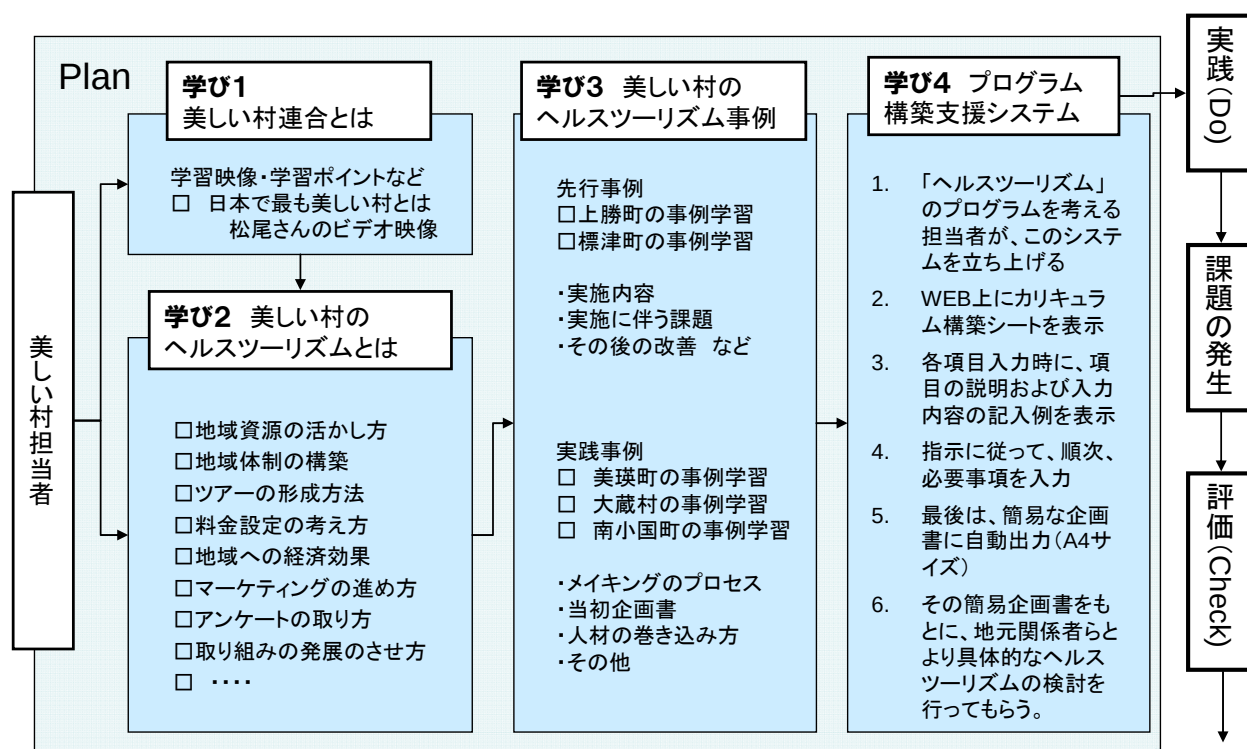
(通称UNS)

- ◇ 連合加盟地域での活用促進
- ◇ 旅行商品の開発促進



《リーディングモデル地域におけるカリキュラムの構築》

リーディングモデル地域である北海道美瑛町、山形県大蔵村、熊本県南小国町は、以下のようなカリキュラム（学び1～学び4）のプロセスを組んだ。



(解説)

学び1

- 「日本で最も美しい村」連合の活動理念について、連合創設者たちが語る映像を収録・データベース化する。
- このことにより、連合加盟地域の新たな担当者や関係者が、そもそもの活動理念を学ぶ機会とする。

学び2

- 「日本で最も美しい村」連合が考えるヘルスツーリズムについて、ダウンロードによるテキスト形式で学ぶ機会とする。

学び3

- 連合加盟地域の中には、様々なスタイルでヘルスツーリズムに取り組んでいる。これらの事例を学ぶ機会とする。

学び4

- 加盟地域において、本システムを用いて実際にヘルスツーリズムのコンテンツ開発をするために、様々な情報を整理する入力システムを提供する。

学び1から学び4のプロセスを、美しい村ネットワークシステム（UNS）で提供する。

■美瑛町における取り組み

《基本的枠組み》

誰が	コーディネーター 小野崎研郎（国土総合研究機構観光まちづくり研究会） アドバイザー 浅田彰（自転車スポーツプロデューサー） 中西安弘（大手自転車メーカースポーツサイクル関係）																								
対象	観光協会を中心とした組織形成																								
カリキュラム・教材	個別テーマ 「美瑛の丘のサイクリング」 ・浅田氏、中西氏 30代女性の美容促進 筋肉コントロール ・町内コース整備 ハード事業－ナビシステム・パイオニア ◇ 選べる3コースの検討 ターゲット（対象）にあわせた推奨コースをつくります <table><tr><th></th><th>対象</th><th>レベル</th><th>所要時間めやす</th><th>車種</th><th>テーマ</th></tr><tr><td>1</td><td>家族向け</td><td>初心者～初級</td><td>1時間以内</td><td>ママチャリ型、タンデム（2人乗り）、変わった自転車など</td><td>美瑛の丘を楽しくサイクリング</td></tr><tr><td>2</td><td>シニア（サイクリスト）向け</td><td>中級～上級</td><td>4～5時間</td><td>スポーツ車</td><td>・美瑛センチュリーライドをめざす ・レベルアップ</td></tr><tr><td>3</td><td>30代向け女子</td><td>初級者</td><td>2～3時間（半日程度）</td><td>電動付アシスト、ママチャリ型、スポーツ車</td><td>スイーツめぐり？ リフレッシュ、オシャレな等等など・・・</td></tr></table> レベルわけのめやす ▶ 初心者：買物など日常で利用 ▶ 初級者：走行距離 ～50km 趣味で自転車を始めたばかり ▶ 中級者：走行距離 60～150km 自分のレベルに合った大会に参加 ▶ 上級者：走行距離 150～250km 高価な自転車を所有。大会に出場 自転車の知識に長けている		対象	レベル	所要時間めやす	車種	テーマ	1	家族向け	初心者～初級	1時間以内	ママチャリ型、タンデム（2人乗り）、変わった自転車など	美瑛の丘を楽しくサイクリング	2	シニア（サイクリスト）向け	中級～上級	4～5時間	スポーツ車	・美瑛センチュリーライドをめざす ・レベルアップ	3	30代向け女子	初級者	2～3時間（半日程度）	電動付アシスト、ママチャリ型、スポーツ車	スイーツめぐり？ リフレッシュ、オシャレな等等など・・・
	対象	レベル	所要時間めやす	車種	テーマ																				
1	家族向け	初心者～初級	1時間以内	ママチャリ型、タンデム（2人乗り）、変わった自転車など	美瑛の丘を楽しくサイクリング																				
2	シニア（サイクリスト）向け	中級～上級	4～5時間	スポーツ車	・美瑛センチュリーライドをめざす ・レベルアップ																				
3	30代向け女子	初級者	2～3時間（半日程度）	電動付アシスト、ママチャリ型、スポーツ車	スイーツめぐり？ リフレッシュ、オシャレな等等など・・・																				

	◇ 楽しみながら、安全・快適なサイクリングができるように、マップに掲載したらよいと思われること ▶ 休憩場所（自転車から降りて小休憩できるスペース） ▶ トイレ箇所 ▶ ビューポイント（季節情報、花や生物など じゃがいもの花が一面に広がる、とか） ▶ 立ち寄りたい店（グルメ情報やおみやげ、体験など） ▶ 危険箇所や留意点（急坂や交通量、迷いやすい所など） ▶ 所要時間のめやす（全体工程と、次のポイントに行くまでの2種類）
手法	ワークショップを通じた人材育成とコンテンツ開発   以下に、カリキュラムの展開を掲載します。

《カリキュラムの展開》

ミーティング名称	第1回美瑛町協議会 ―地元キックオフ会議―
テーマ	美瑛のヘルスツーリズムについて
日時	2011年4月13日（水） 14時～16時
場所	美瑛町観光協会
内容	■事業の位置づけ ■ヘルスツーリズムについて

ミーティング名称	美瑛におけるサイクリング観光の可能性
テーマ	○自転車を活用したイベント（ブリヂストンが行っているイベントについて） ○自転車のイベントの現況 ○どのようにして人集めを行っているか ○自転車を活用した健康づくりについて ○美瑛におけるサイクリング観光の可能性
日時	平成23年4月21日（木）16:30～18:00
場所	ブリヂストン 本社（エンジニアリング事務所）
内容	テーマに挙げた5つの議題についてヒアリングを実施した。ここでは、5つ目「美瑛におけるサイクリング観光の可能性」について具体的な内容を記載する。 【美瑛におけるサイクリング観光の可能性】

ミーティング名称	打合せ協議
テーマ	美瑛のヘルスツーリズムについて
日時	2011年5月31日（火） 13時～15時
場所	美瑛町観光協会
内容	1. 経過報告（PCKKより） 2. 次回の検討会について ■今後の会議のメンバー（呼びかけをどこまで行うか） ■第2回検討会までに、参加メンバーにお願いしておくこと ■自転車による健康づくりの講習会の開催について ■その他 3. その他 ・美瑛センチュリーライドのコース上に看板をつける話が出ている ・お金をかけるところはプロモーションではないだろうか ・何かよいイメージ戦略がないか・・・

ミーティング名称	打合せ協議
テーマ	美瑛のヘルスツーリズムについて
日時	2011年5月31日（火） 16時～17時
場所	美瑛町役場 政策調整室
内容	1. 経過報告（PCKK より） 2. 町 としてやってほしいこと ■自転車走行環境の整備 ■美瑛センチュリーライドについて 3. ヘルスツーリズムについて

ミーティング名称	打合せ協議
テーマ	美瑛のヘルスツーリズムについて
日時	2011年6月1日（水） 10時～11時
場所	美瑛町スポーツセンター
内容	■美瑛センチュリーライドについて
ミーティング名称	ヒアリング
テーマ	ネイチャークラブの活動内容について 美瑛のヘルスツーリズムにおけるメニューづくりについて
日時	2011年6月1日（水） 11時～12時
場所	美瑛町白金観光センター内
内容	<今回の日本で最も美しい村連合のヘルスツーリズム推進事業について、美瑛町での展開策の概要を説明した。メニューづくり等のアドバイスをいただいた。> ■美瑛・白金ネイチャークラブの活動について／メニューづくりについて

ミーティング名称	第2回美瑛町協議会
テーマ	美瑛のヘルスツーリズムについて
日時	2011年6月14日（火） 13時～15時
場所	美瑛町観光協会2階 会議室
会議風景	

内容	1. 美瑛で取り上げるツーリズムのテーマについて 2. 取り組み ■ターゲット ■自転車の車種 ■人材 ■自転車のまちづくりの推進 ■留意点 3. 推進体制づくり ■体制 ■声かけ 4. 今後の進め方（次回） ■サイクリングコースづくり ■講習会の実施 5. 美しい村のツーリズムについて
----	---

ミーティング名称	第3回美瑛町協議会
テーマ	美瑛のヘルスツーリズムについて
日時	2011年7月10日（日）・現地調査 11日（月）・協議会13時～15時
場所	美瑛町観光協会2階 会議室
会議風景	 
内容	1. 自転車に関する学習会 ■運動生理学・自転車による健康づくり・車種について（ブリヂストン中西氏） ■フランスの自転車文化（エキップアサダ浅田氏） 2. 推進組織について 3. その他（意見交換） ■自転車によるまちづくり は合意がとれているのか ■サイクリングコースのマップづくりが目的になっていないか ■どうやって自転車のまちづくりを進めていくか

■大蔵村における取り組み

《基本的枠組み》

誰が	コーディネーター 波佐本由香（(株)HAKK L代表） アドバイザー 橋屋哲（旅行関係） 伯井竜太（旅行関係） 大瀬由生子（食文化関係）
対象者	大蔵村肘折温泉組合を中心に、四賀村棚田保存会との連携による組織形成
カリキュラム・教材	個別テーマ 「アクティブな湯治文化と食の癒し」 ・現代版湯治の楽しみ方 ・肘折温泉の評判料理開発「山形地鶏を用いたサンゲタン」 （大瀬アドバイザーによるレシピ指導） ◎料理のメニュー ・サムゲタン ・サムゲタンがゆ ・サムゲタンカレー ・カレーうどん ・縁むすび（おむすび） ・トマトコンポート ・トマトゼリー ・トマトジャム ◎地元産のやまがた地鶏やトマトなどを活用したメニュー ◎サムゲタンにすることにより、薬膳のイメージで健康的な食事の提供 ◎やまがた地鶏のスープを数種類のメニューに活用し、美容にもいいイメージ
手法	ワークショップを通じた人材育成とコンテンツ開発 以下に、カリキュラムの展開を掲載します。

《カリキュラムの展開》

ミーティング名称	第 1 回大蔵村協議会
テーマ	協議目的 総務省の地域 ICT プロジェクトを活用し、「日本で最も美しい村」連合で進めようとしている（大蔵村含め 3 町村）ヘルスツーリズムについて、その目的、効果を説明していただいた。また、この事業を本村で行う際に、どのようなものができるか、地元の方を交えて協議、話し合いを進める。
日時	2011 年 2 月 21 日（月） 10 時から 12 時 30 分
場所	肘折センター
会議風景	 
内容	◆協議内容 (1) 連合の課題として、美しい村の地域資源を活かし、観光活性化に繋がる戦略をつくる必要がある。しかし、何でもいいという訳ではなく、美しい村ならではのツーリズムを築いていくことが重要。 (2) 加盟町村を見回したとき、「健康・ヘルス」という題材が、どこにも共通しており、テーマとして「ヘルスツーリズム」を掲げ、集中的に美しい村のポテンシャルを引き出す仕組みを構築。 (3) 加盟町村の中から、北海道美瑛町、熊本県南小国町、大蔵村の 3 地域でまずは事業を展開し、その後 39 地域につなげ、現状のツーリズムのコンテンツのクオリティを一定水準以上に引き上げ、ひいては連合加盟地域の発展に資することを目的とする。 (4) 大蔵村で事業をすすめる際に、地域資源として何があるか、地元からピックアップしていく。逆に、不足しているものは何なのか、そこをどう外部から助けられるか。連合にはいろいろな企業が参画しているので、連携することができる。 (5) ヘルスツーリズムは、ある種難しいツーリズムであるが、ターゲットをしっかりとコアな人たちに向けてプロモーションしていく。 (6) ヘルスツーリズムは、湯治の延長線上にあると思うし、温泉療養相談など、肘折温泉では取り組んでいることも多いので、とっかかりやすいテーマなのではないか。 (7) 肘折は雪が障害になっている。利用はできないか。どこかのマネではなく、肘折独自のものを考えていくべきと考える。 (8) スポーツや体験などで、地元の人と交流ができるのは、重要なツールであ

	る。また、地元の人々も共に満足できる、楽しめる、身近に感じられることも大切。 (9) 食事の重要性。地元で採れるものをきちんと提供することが大事。 (10) 今までヘルスツーリズムをしてきたが、ターゲットを絞れず、またエージェントの関わりからツアー化しなかった。この事業で、連合とどうからめてすすめていくか、今まで行ってきた現代版湯治にどうプラスし、どう新しくするかが課題。 (11) どの年代のどういう人をターゲットにするか。また、その人たちにどう PR していくかが問題。
--	--

ミーティング名称	第2回大蔵村協議会
テーマ	協議目的 「日本で最も美しい村」連合で進めようとしている（大蔵村含め3町村）ヘルスツーリズムについて、旅行商品化したいと思い、波佐本さん、伯井さんから来ていただいた。どのようなものができるか、地元の方を交えて協議、話し合いを進める。
日時	2011年5月12日（木）・現地調査 13日（金）・協議会 10時から12時
場所	肘折いでゆ館「研修室」
会議風景	
内容	◆協議内容 (3) 大蔵村、肘折温泉は魅力満載だと思う。1週間単位のプロモーションにすると宿泊者も増えると思う。（伯井アドバイザー） (5) スパリエになりながら、地蔵倉などで縁結びができれば、滞在型になるのではないかと思った。スパリエは響きがよい。女性に好かれる言葉だ。 (6) 滞在型にするには1日だけの大きなイベントではなく、長期間できるものがあるとよい。写真コンテストもよいが、写真をうまく撮るための実践講座などもおもしろい。スケッチより写真の方が、参加者から受けがよい。女性の愛好家も多い。こういったことをPRするイベントと一緒にやるとよい。（伯井アドバイザー） (7) 今は休暇ではなく、「休業」という制度がある。これを利用して、長期宿泊滞在に向け労働組合にアプローチするとよい。企業も分散して休みをとれ

	と言っている。「長く休む」（ロングステイ）というのが、キーワードになる。 (8) 温泉地全体が廊下で、旅館は部屋、商店は売店という考えがあるので、それを活かした何か統一したのがあるとおもしろい。旅館のアメニティを統一したり、料理の3品が同じなど、ちょっとしたものでよい。リピーターが増える。 (10) 「食」をどうするか、ヘルスという切り口でやってみる必要がある。何か方向性をもって取り組みたい。薬膳にしても、学問的な観点ということではなく、お客さんがおいしく食べられるようなメニュー作りの講習は可能だ。 (13) 歩くマップ（歩か歩かルート）のデータがあると、そのマップにその季節その季節の情報を入れることができるし、歩く楽しみも増すと思う。「歩かせ方」が大切。 (15) そのためには地元として、いろんなプログラムを準備して、ボランティアを含め7日間退屈しないで、健康になれるとよい。何ができるか詰めてほしい。 (17) 美しい村連合でこの事業に取り組んでいる南小国町の黒川温泉では、スパリエのような取り組みをしたいと言っている。肘折温泉と連携ができるのではないかな。 (18) 全国町村会では、東京でPRする会（物産展）を予定しており波佐本さんも博報堂さんと一緒にやっている。12月3・4日、東京フォーラムで行う。 是非、大蔵村も参加してほしい。これは単なる物産展だけではなく、旅行会社（近ツーなど）も参加し、参加市町村のツアーも企画したいというねらいがある。（伯井アドバイザー） (19) 首都圏の商店街と一緒にあって、PRする方法もある。「板橋ハッピーロード」は有名だが、ここでは出店も可能だ。店舗借料は2万円程度と安い。大蔵村、肘折温泉としても、いろんなことがやれるのではないかな。
--	--

ミーティング名称	第3回大蔵村協議会
テーマ	協議目的 ヘルスツーリズムを進めるにあたり、「食」は重要なポイントとなるため、地元産の産物を使った健康的なメニューを開発いただき、肘折温泉の旅館関係者や村内の飲食業者にそのメニューを学んでもらう。
日時	2011年6月17日（金）・料理指導準備 18日（土）・協議会 10時から13時 19日・現地調査
場所	肘折いでゆ館「療養相談室」
会議風景	   
内容	◆協議内容（大瀬アドバイザーによるレシピ指導） ◎料理のメニュー ・サムゲタン ・サムゲタンがゆ ・サムゲタンカレー ・カレーうどん ・縁むすび（おむすび） ・トマトコンポート ・トマトゼリー ・トマトジャム ◎地元産のやまがた地鶏やトマトなどを活用したメニュー

	◎サムゲタンにすることにより、薬膳のイメージで健康的な食事の提供 ◎やまがた地鶏のスープを数種類のメニューに活用し、美容にもいいイメージ
--	--

ミーティング名称	第4回大蔵村協議会
テーマ	協議目的 ヘルスツーリズムを進めるにあたり、「情報発信・プロモーション」は重要なポイントとなる。このため、地域の情報発信の仕方を旅行アドバイザーから指導を受ける。
日時	2011年7月18日（月）・現地調査 19日（火）・協議会 10時～12時 20日（水）・現地調査
場所	肘折いでゆ館「療養相談室」ほか
会議風景	
内容	- 近畿日本ツーリスト株式会社（KNT）に勤務する橋屋氏から、KNTで出版しているフリーペーパー「KNTaste」を紹介。（橋屋アドバイザー、伯井アドバイザー） - 旅行に関するマーケット動向を講義。 - 肘折温泉の場合、開湯 1200 年の歴史を活かした湯治文化の発信方法が重要との指摘。 - 今後、フリーペーパーなどとのコラボレーションの可能性を検討

■南小国町における取り組み

《基本的枠組み》

誰が	コーディネーター 波佐本由香（(株)HAKK L 代表） アドバイザー 伯井竜太（旅行関係） 大瀬由生子（食文化関係）
対象者	黒川温泉組合青年部を中心とした南小国の民間の集結による組織形成
カリキュラム・教材	個別テーマ 「農村空間の癒しと食文化の魅力」 ・農家民宿の魅力の向上と食材開発（有機野菜、肉食－褐毛和牛・合鴨） ・黒川温泉周辺のウォーキング（欧米人の湯治スタイル） 【開発レシピ】 女性が好みそうなトマトやオリーブオイル、にんにくといったイタリアンテイストに薬膳をバランスよく取り入れることによって、「おいしい」だけでなく「カラダに良さそう」な、一度で2度オイシイお得感も味わえるイタリアン薬膳を考えてみました。 イタリアン薬膳（例）薬膳鍋・前菜・デザート付きのコース 薬膳バーニャカウダソース トマトと豆腐のカプレーゼ風 薬膳スープで作る鴨鍋 4人 鴨鍋 パンナコッタ ジャージー牛乳
手法	ワークショップを通じた人材育成とコンテンツ開発   以下に、カリキュラムの展開を掲載します。

《カリキュラムの展開》

ミーティング名称	第1回南小国町協議会
テーマ	南小国町のヘルスツーリズムについて
日時	平成23年3月29日
場所	黒川温泉べっちゃん館
会議風景	
内容	1. 「日本で最も美しい村」連合ヘルスツーリズムの概要説明 2. 提案事項 ■商品開発費用について ■旅行代理店の参入について 3. 意見交換

ミーティング名称	「日本で最も美しい村」連合南小国町ヘルスツーリズム検討会分科会
テーマ	ヘルスツーリズムへの提案
日時	平成23年4月3日
場所	星和小学校
会議風景	
内容	1. 意見交換 ヘルスツーリズムへの提案 ■収穫体験：訪れた人たちが自分たちで収穫や農業体験を行い汗をかく。収穫した安全安心の食材を使った料理を食べる。農家との交流も深まる。 ■ウォーキング ■水源めぐり：南小国町の水の水質を調査し、安全安心であることや効能を調べる。 ■山菜取りツアー：山の山菜をハイキングがてら採りに行く。 ■実践伝統療法：昔から伝えられている医療法や薬草などを実際に試してみ

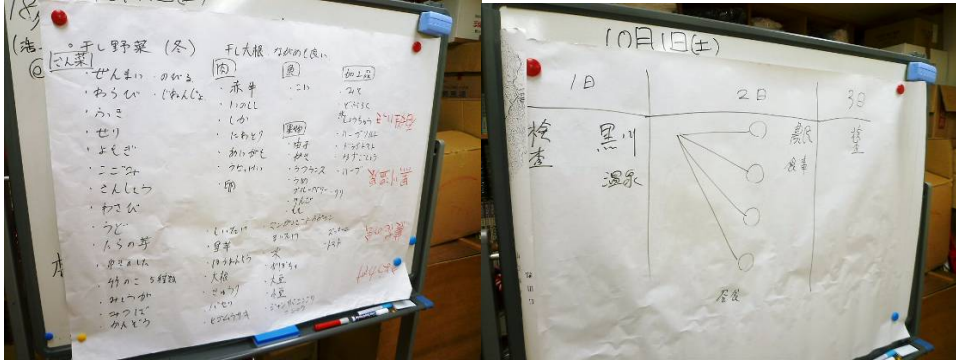
	る。 ■朝市手伝い：農家の朝市に参加し売り子として販売をしてもらう。 2. その他
--	--

ミーティング名称	第2回南小国町協議会
テーマ	・南小国町で確保できる医療関係専門家について ・ヘルスツーリズム 南小国町のコンテンツ整理
日時	平成23年4月8日
場所	黒川温泉べっちゃん館
会議風景	
内容	1. ヘルスツーリズムにおける専門家調査 2. 意見交換 課題 ・語り部や案内人がいない。→育てる。 ・受け入れ窓口や体制を整える必要がある。 ・予算の確保。スポンサーなど。 ・発信方法→連合サポートの旅行代理店 →町、黒川温泉HPの活用、黒川温泉旅館組合の協力 ・農花の会の活動すばらしい→発信が弱い →「農花の会」のブランド化を目指す。

ミーティング名称	第3回南小国町協議会
テーマ	ヘルスツーリズムプログラムの作成
日時	平成23年4月26日
場所	黒川温泉べっちゃん館
会議風景	 
内容	1. ヘルスツーリズムの流れ 2泊3日プラン（案） 健康診断 ↓ 食 事 健康診断の結果により食事を選択 ↓ 個人個人にあわせた複数のメニューを準備できる旅館を募る 旅館宿泊 ↓ 体 験 ウォーキングなど様々な健康改善メニューを準備 ↓ 温泉入浴 温泉の入り方について指導 ↓ 温泉ソムリエ 農家民泊 ↓ 健康診断 健康改善度をチェック 2. 意見交換 料理、食材について 案内人について その他

ミーティング名称	第4回南小国町協議会
テーマ	南小国町の観光ポテンシャルの評価
日時	平成23年5月1日（日）・現地調査 2日（月）・協議会 14時～16時
場所	黒川温泉べっちゃん館
会議風景	
内容	南小国町を訪れての感想（波佐本氏、伯井氏）

ミーティング名称	第5回南小国町協議会
テーマ	・南小国町の地域資源
日時	平成23年5月14日
場所	黒川温泉べっちゃん館
会議風景	 
内容	1. 南小国町の資源 ・南小国町の資源を洗い出した。

ミーティング名称	第6回南小国町協議会
テーマ	・ 南小国の食材について ・ ヘルスツーリズムプランについて
日時	平成23年5月26日
場所	黒川温泉べっちゃん館
会議風景	
内容	1. 南小国町の食材について 2. ツーリズムプランについて

ミーティング名称	第7回南小国町協議会
テーマ	料理教室のすすめ方
日時	平成23年6月9日
場所	電話連絡
会議風景	
内容	1. 協議事項 ・ 6月29日、30日に料理研究家の人と来町予定。 ・ 南小国町の食材について ・ コース選択制について ・ 南小国町の一番良い時間

ミーティング名称	第8回南小国町協議会
テーマ	ヘルスツーリズムについて今後の進め方
日時	平成23年6月16日
場所	さくら荘
会議風景	
内容	1, 協議事項 ・ヘルスツーリズムについて今後の進め方。 ・旅行者がコースを選択する場合、6コースぐらいは必要。

ミーティング名称	第9回南小国町協議会
テーマ	ヘルスツーリズムについて今後の進め方
日時	平成23年6月29日・料理教室準備（大瀬） 30日・料理教室（大瀬） 7月1日・料理教室（大瀬） 2日・現地調査（伯井） 3日・現地調査（伯井）
場所	さくら荘
会議風景	
内容	料理研究家の大瀬さんが開発したレシピをもとに、南小国町のメンバーが料理研修会を行った。 南小国町の魅力を楽しめるコンテンツについて、伯井アドバイザーが、現地調査を行いながら地元協議会メンバーに指導を行った。

③ 1で育成等したICT人材の活用人数

今回の事業において活用したICT人材の人数及びその大まかな属性（例：NPO法人職員、学識者、チャレンジド、育児期の親、退職した高齢者など）を記載する。

	活用人数	属性 等
加盟 39 地域	担当者 39 名 連合スタッフ 4 名 サポーター企業 3 名 個人サポーター 5 名	■ NPO法人「日本で最も美しい村」連合各地域担当者 ■ NPO法人「日本で最も美しい村」連合事務局スタッフ ■ NPO法人「日本で最も美しい村」連合のサポーター企業スタッフ ■ NPO法人「日本で最も美しい村」連合の個人サポーター
美瑛町	協議会 20 名 担当者 3 名 アドバイザー 2 名	■ 美瑛町協議会のメンバー ■ NPO法人「日本で最も美しい村」連合美瑛町担当者 ■ アドバイザー
大蔵村	協議会 13 名 担当者 2 名 アドバイザー 4 名	■ 大蔵村協議会のメンバー ■ NPO法人「日本で最も美しい村」連合大蔵村担当者 ■ アドバイザー
南小国町	協議会 15 名 担当者 1 名 アドバイザー 3 名	■ 南小国町協議会のメンバー ■ NPO法人「日本で最も美しい村」連合南小国町担当者 ■ アドバイザー
	のべ 114 名	

④ ICT人材の活用方法

ICT人材を今回の事業において、どのように活用したのか（例：住民ニーズの把握、住民・関係者との調整、ICT機器等の操作・利用支援、システム設計サポート（関係事業者との調整）、システム運営、トラブル対応など）具体的かつ詳細に記載する。

	ICT人材の活用方法
美瑛町	○ 美瑛町におけるヘルスツーリズムの考え方の検討 ○ ヘルスツーリズムの形成における地域のこれまでの美瑛町の取り組みの情報収集 ○ 『サイクリング』を中心とした美瑛町のヘルスツーリズムのコンテンツの検討 ○ コンテンツ検討のプロセスから美しい村ネットワークシステム（UNS）開発へのノウハウのフィードバック
大蔵村	○ 大蔵村におけるヘルスツーリズムの考え方の検討 ○ ヘルスツーリズムの形成における地域のこれまでの大蔵村の取り組みの情報収集 ○ 『湯治』を中心とした大蔵村のヘルスツーリズムのコンテンツの検討 ○ コンテンツ検討のプロセスから美しい村ネットワークシステム（UNS）開発へのノウハウのフィードバック
南小国町	○ 南小国町におけるヘルスツーリズムの考え方の検討 ○ ヘルスツーリズムの形成における地域のこれまでの南小国町の取り組みの情報収集 ○ 『食文化』を中心とした南小国町のヘルスツーリズムのコンテンツの検討 ○ コンテンツ検討のプロセスから美しい村ネットワークシステム（UNS）開発へのノウハウのフィードバック
加盟 39 地域	○ 日本で最も美しい村・連合としてのヘルスツーリズムの考え方の検討・共有 ○ 加盟 39 地域のそれぞれにおけるヘルスツーリズムの考え方の検討 ○ ヘルスツーリズムの形成における地域のこれまでの加盟 39 地域の取り組みの情報収集 ○ 美しい村ネットワークシステム（UNS）開発におけるシステムの利用性に関するモニタリング・チェック作業

⑤ 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

日本で最も美しい村・連合は、住民によるまちづくりを通じて観光的付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与することを目的としている。この観点から、ヘルスツーリズム推進の意義を整理し、今後の連合の展開に関する課題の抽出と提言を行う。

1. 日本で最も美しい村としてのクオリティを名実ともに高める上で、特定のテーマを設定し、互いの切磋琢磨による活動が必要

日本で最も美しい村・連合は発足5年となり、社会的にも徐々に認知されるようになってきた。その組織名称から、旅行者の各美しい村に対する期待は高いものとなっている。一方で、各加盟地域は、美しい村としての発展途上であり、より高い美しい村づくりを目指すことが求められている。この取り組みを住民が積極的に参加し、行政が住民の取り組みを支援していく関係づくりを推進するには、あえて特定テーマを設定し切磋琢磨することが必要であることがわかった。

2. 美しい村のポテンシャルを活かす上で、特定のテーマとして「ヘルスツーリズム」は有効

今回の事業では、「ヘルスツーリズム」を特定テーマとして取り組んだ。連合を構成する地域の環境は、誰もが心身の癒されるポテンシャルを持つ地域である。連合全体で設定できる共通テーマの選択肢は、それほど多いとは考えにくい中、今回取り組んだ「健康・ヘルスツーリズム」は、結果として、日本で最も美しい村らしいテーマであると考えられる。その考え方については、冒頭の日本で最も美しい村としてのヘルスツーリズムの考え方に整理した。本事業では、3地域をモデルに具体的展開の緒に着いたばかりである。今後も、引き続きヘルスツーリズムの推進にあたる必要がある。

3. 地域プロモーションの取り組みの弱さ、必要性の認識の弱さを克服するには、プロたちの助力が必要

言い古された言葉ではあるが、地域の活性化に必要な人材には、いわゆる「よその」「わかもの」「ばかもの」が必要であると言われる。連合に加盟する地域においても、とかく閉鎖的になりがちである。このような状況の中で、本事業を活用することで外部から、よそのとしてコーディネーターやアドバイザーを投入することができた。彼らは、美しい村の理念を尊重しつつ、しがらみなどを越えた地域の展開により、新しい風を巻き起こした。今回の事業で構築した関係性や人脈は、日本で最も美しい村・連合の財産であると考えられる。今回の3地域を皮切りに、連合に加盟する多くの地域でヘルスツーリズムを展開していく予定である。その場面において、今回関与して頂いたアドバイザーたちの助力が期待される。

4. 旅行者のニーズは、地元にいるだけでは見えない。積極的なアウトリーチが必要

ツーリズムをなりわいとする者たちを中心に協議会を構成し、ヘルスツーリズムのプログラムを検討してきた。その中で感じることは、いかに外の世界と接点を持っていることが重要かということである。日々、社会状況が変化の中で、美しい村を訪れる旅行者たちのニーズも変化していく。このような変化をつかみ取るには、自分たちの宿に來た人を待つだけではなく、積極的

に旅行者たちの暮らす場を訪ねたり、他の美しい村を訪れたりするなどして、社会の変化を自らつかみ取ることが重要である。

美しい村づくりに限らず、一般的な地域づくり、地域産業振興における活動主体の構築が弱い中で、引き続き、日本で最も美しい村・連合ならではの展開を図ることが必要である。とかく、新しい取り組みへのチャレンジの経験が少なく、引込み思案になりがちな状況もあるものの、特に若い世代は、このままではいけない、なんとかしたいという熱意に溢れている。一方、どうしても高齢化率の高い地域が多い連合加盟地域では、高齢者世代が若手世代を押さえ込んでしまう実態もある。今後、世代交代を意識的に進めることも求められる。このためには、地域内だけでの取り組みとせず、美しい村連合のネットワークを活かし、外部の理解者たちの力を借りながら、一歩ずつ取り組みを深めることが期待される。その積み重ねの結果として、日本で最も美しい村・連合の存在意義が高まり、結果として、地域の活性化や世界から見た日本の美しさにつながる大切である。

個別の展開予定

	育成予定	人材活用
美瑛町	○ 平成 22 年度事業により、美瑛町の地域資源である『丘の景観』や『食材』を活かしたヘルスツーリズムの旅行商品の開発を継続 ○ 平成 23 年 9 月頃に、第 1 弾の展開を予定 ○ 日本で最も美しい村連合ネットワークシステム（以下、UNS）を用いたコンテンツ開発	○ 美瑛町協議会を中心に、平成 22 年度に関与したアドバイザーなども参加しながら、UNSを活用したコンテンツの開発を推進
大蔵村	○ 平成 22 年度事業により、大蔵村の地域資源である『湯治文化』や『棚田などの農文化』を活かしたヘルスツーリズムの旅行商品の開発を継続 ○ 日本で最も美しい村連合ネットワークシステム（以下、UNS）を用いたコンテンツ開発	○ 大蔵村協議会を中心に、平成 22 年度に関与したアドバイザーなども参加しながら、UNSを活用したコンテンツの開発を推進
南小国町	○ 平成 22 年度事業により、南小国町の地域資源である『黒川温泉』や『グリーンストック』を活かしたヘルスツーリズムの旅行商品の開発を継続 ○ 平成 23 年 10 月頃から、徐々にヘルスツーリズムのコンテンツを町内各所で導入予定 ○ 日本で最も美しい村連合ネットワークシステム（以下、UNS）を用いたコンテンツ開発	○ 南小国町協議会を中心に、平成 22 年度に関与したアドバイザーなども参加しながら、UNSを活用したコンテンツの開発を推進
加盟 39 地域	○ 各加盟地域の状況に応じて、日本で最も美しい村連合ネットワークシステム（以下、UNS）を用いたコンテンツ開発への着手	○ 日本で最も美しい村連合の担当者会議を中心に、平成 22 年度に関与したアドバイザーなども参加しながら、UNSを活用したコンテンツの開発を推進

2 事業運営主体におけるＩＣＴ人材の育成・活用内容

① ＩＣＴ人材の育成人数

「申請主体」と「事業運営主体」が同じ（日本で最も美しい村・連合）ため、前項に重複

② ＩＣＴ人材の育成方法

「申請主体」と「事業運営主体」が同じ（日本で最も美しい村・連合）ため、前項に重複

③ 1で育成等したＩＣＴ人材の活用人数

「申請主体」と「事業運営主体」が同じ（日本で最も美しい村・連合）ため、前項に重複

④ ＩＣＴ人材の活用方法

「申請主体」と「事業運営主体」が同じ（日本で最も美しい村・連合）ため、前項に重複

⑤ 次年度以降のＩＣＴ人材の育成・活用内容（予定）

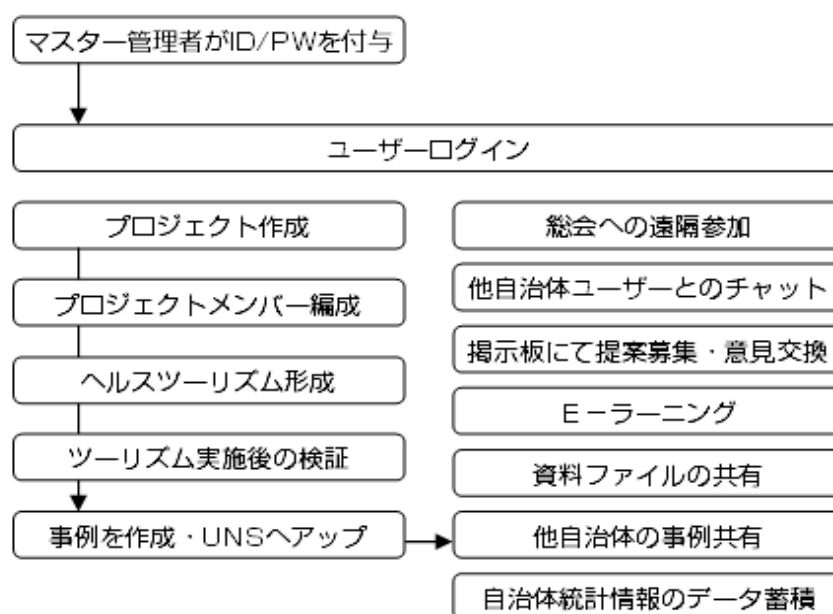
「申請主体」と「事業運営主体」が同じ（日本で最も美しい村・連合）ため、前項に重複

Ⅱ システム構築・活用成果

1 構築システム概要

日本で最も美しい村ヘルスツーリズム ネットワークシステム（以下 UNS）は、日本で最も美しい村連合に加盟している自治体を中心に、関係者、関係団体を包括し、地域活性化の事業計画の1つであるヘルスツーリズムの造成を目的とした、コミュニケーション及びプロジェクト進行管理、情報共有が行なえることをシステム基本要件としたシステムを指す。

また、コミュニケーション機能においては、遠方からの会議出席やイベントへの参加を促すために、リアルタイムで映像配信可能な Ustream の API を導入し、情報共有のリアルタイム性を実現した。



2 システム設計書

別添2のとおり。

3 システム運用で得られた成果

① システム運用期間の実績

UNS の試行運用期間（2011 年 7 月 15 日～21 日の 1 週間）で得られた成果を以下に示す。

【数値データ】

1 週間という期間であったが、39 自治体の各担当者による試行運用から、回答者のうち 87% がシステム活用により情報共有、情報交換できた。また、述ベログイン数は 161 件、システムによる交流件数は 7 件の成果があった。今後の本運用に向け利活用が期待できる結果となった。

○UNS の試行運用により得られた理解度：87%

主観的理解度向上率（実感）＝87%

式＝システム活用により情報共有、情報交換できた方 26 名÷全回答者数 30 名

○延べログイン数：161 件、日平均延べログイン数：23 件

日ごと延べログイン数		日ごとユニークログイン数	
日付	ログイン数	日付	ログイン数
2011/7/15	43	2011/7/15	13
2011/7/16	0	2011/7/16	0
2011/7/17	3	2011/7/17	1
2011/7/18	6	2011/7/18	5
2011/7/19	24	2011/7/19	11
2011/7/20	46	2011/7/20	20
2011/7/21	39	2011/7/21	23
合計	161	合計	73
日平均	23	日平均	10

○システムによる交流件数：7 件、スレッドに付随するコメント 10 件

システムによる交流件数

	数値
スレッド数	7 件
スレッドに付随するコメント数	10 件

【アンケート回答コメント】

UNS の試行運用期間中に実施したアンケートから、以下のようなコメントが得られた。加盟自治体をつなぐネットワークに関して有意義であるというコメントが多い一方、システム利用方法についての研修の場が必要であることが明らかとなった。

	具体的なコメント
1	39 加盟村・地域のネットワークが出来ることは良い。(標津町担当者)
2	各市町村が、問題なくシステムを利用できるよう、今後担当者会議等協議の場を増やしていただきたい。ホームページは非常に見やすいレイアウトであった。(綾町担当者)
3	今までにない新しい事業への取組で、また異業種が集まったことで新しい交流が生まれ、様々な意見や発想が出た。(大蔵村地元関係者)
4	このような形でヘルスツーリズムを事業化するプロジェクトは今後無いのではないか。この機会に肘折温泉にヘルスツーリズムを定着させ、新しい層の顧客を掘り起こしたい。(大蔵村地元関係者)
5	いろいろな分野の人がこうやって一同に思いを巡らせ、時にはぶつけ合い、一つのものをつくりあげていく機会は今までなかったせいか、これまでなかったからこそのはけ口のように会議はいつも盛り上がっています。「いろんな会議に出るけどこの集まりが一番メンバーの意識も高く勉強になる」と話すメンバーもいたり、大変によいきっかけを今回いただきました。ありがとうございました。(南小国町担当者)

② 今後期待される効果

本事業により、ICT の特性を生かした「日本で最も美しい村ネットワークシステム（通称 UNS）」を構築することができた。UNS の継続的運用によって、以下のような成果が得られる基盤

が構築できた。

➤ 情報格差の解消

日本で最も美しい村を構成する地域は辺境地が多く、社会のトレンドに関する情報の把握などが遅れがちとなり、ビジネスチャンスなどに乗り遅れがちとなる。今回のシステムでは、都市部在住のサポーターなどとのコミュニケーションも積極的にとることができるようになる。これまで、美しい村の情報は、総会、担当者会議などの実空間の場が主な情報共有の場であった。メールなども活用していたが、多様なメンバーの相互コミュニケーションの実現は困難だった。そのため、これまで各地域で埋もれていた情報も、今回の ICT システムを通じて共有される機会が広がり、情報格差の解消が期待される。更に、各地域の行政担当者、観光協会、農林漁業組合、温泉組合、地場産業の企業経営者、地域で活動する NPO、地域住民、ボランティアなどとともに、ヘルスツーリズムプロジェクトをサポートする都市部在住の外部アドバイザー、サポーター企業の担当者など、様々なステークホルダーも活用していくことで、地域を越えた広域的な繋がりができる。これら地域関係者および、都市在住者のとの UNS を通じたスレッド、メッセージ、チャット、会議機能等のコミュニケーションにより、美しい村各地の観光産業に新たな旅行商品の創出、地場産業等には新たな地域物産品の創出などのビジネスチャンスが生まれる見込みである。

➤ 新しい情報・トレンドの共有

個々の美しい村だけでは、情報収集能力も限られる。今回のシステムでは、様々な情報をデータベース化し、検索できるようになるため、新しい情報やトレンドの旧友ができるようになる。

➤ 全国区で活動する専門家の関与

本事業の推進の過程で、旅行系や医療系、食文化など様々な専門家の助力を得られる体制を構築できた。今後も、UNS等を活用しながら、これらの専門家とのネットワークを維持していくことができる。

4 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

■事業実施過程において明らかとなった課題とその対応

	他の地域での事業実施の際 参考となるような論点・課題	対応方策
1	自治体のネットワーク環境はセキュリティ面で強固であり、自治体職員が各庁内のネットワーク環境から美しい村ネットワークシステムにログインできない可能性がある。	各自治体には可能な限り、庁内ネットワーク環境とは別の一般的なネットワーク環境を構築していただく。マスター管理者から ID とパスワード発行によるサイト管理を行うことに切り替えた。
2	推奨ブラウザの問題 最近使用されるブラウザには、主に以下のものがある。マイクロソフトの Internet Explorer、Mozilla Firefox、Google Chrome これらのうちどれを推奨するかが課題と	バージョン変更ごとに、ホームページの再構築を供用される Internet Explorer は、NPOの運営にとって負担となることから推奨ブラウザから外した。

	なった。	
3	地域が主体となった健康の旅行商品開発で、魅力ある「食」の視点が重要であるが、地域ではあまり認識されていない。	専門家として、管理栄養士と料理研究家の支援を得て、さらに料理研究家を講師として現地に派遣している。
4	地域資源を活用したヘルスツーリズム旅行商品を開発する際のリスク※マネジメントの整理。 ※ここでいうリスクは、薬事法に関わる広告内容での表現、現地でのヘルスプログラム提供に係るリスク	専門家（国立の専門機関の先生たちなど）のアドバイスによる、リスクマネジメントに関するチェック項目を設定し、プログラム開発者がセルフチェックを行えるようにする。

5 自律的・継続的運営の見込み

事業の自立的・継続運営の見込みは、①ポータルサイトの維持管理、②今回の3地域のプログラムの継続、③連合加盟39地域への広がり、④プログラムの多様化と進化、以上の4点が主要なものである。

NPO法人「日本で最も美しい村」連合は、全体としての対応は主に連合事務局が担い、加盟地域での対応は、個々の町村役場や地元の事業者が担う構成を予定している。

	事業	資金計画	実施体制
1	ポータルサイトの維持管理	加盟地域からの会費、連合の事業経費で運営（連合の年間運営予算約1300万円の中から拠出）	- 連合事務局で運営 - 全体に関わるICT人材は、本プロジェクトで開発に関わる連合関係者で維持・発展
2	今回の3地域のプログラムの継続	- 観光振興に掛ける経費の活用 - 旅館等からの負担金の徴収 - 本事業で開発した旅行商品の販売による収益	- 各町村役場と旅館業関係者（もしくは観光協会）で運営 - 地域のICT人材は、当事者である旅館業関係者、美しい村を担当する行政職員で維持管理を推進
3	連合加盟39地域への広がり	- 導入段階の経費は、新規に導入を考える町村などで負担 - 導入後は、先行する3地域と同様	39地域の担当者会議で共有し、対応可能な地域から導入 - 地域のICT人材は、3地域で開発するeラーニングの仕組みで人材を育成 - システムの活用は、連合事務局の支援を受けながら技術習熟
4	プログラムの多様化と進化	NPO運営経費の内、戦略経費の一部を活用	- 連合事務局が中心となって推進 - 新たなプログラムの開発が進んだ場合、連合事務局からの情報発信のほか、39地域の担当者が集まる会議において周知

6 今後の展開方針

本事業の実施により、開発する「美しい村連合ネットワークシステム（ヘルスツーリズム開発システム）」を、連合加盟自治体全体が継続的に利活用し、地域プログラムの開発・実証、連合加盟自治体のナレッジの蓄積・共有を図っていく。その結果として、健康をテーマとした時間消費型観光が促進され、以下の美しい村の活性化に繋がることが期待できる。

（ヘルスツーリズムに直接関係する内容）

- ・ 健康ビジネスに関わる雇用機会の増大
- ・ 日本で最も美しい村連合に対して「心身の健康づくり」の場としてのイメージ形成への寄与
- ・ 宿泊者数の増大
- ・ 地元店舗の売り上げ増大
- ・ ヘルスツーリズムをきっかけとした地域資源活用によるオリジナリティの高い商品開発
- ・ 持続可能なツーリズム産業の形成による若者の起業促進

（上記取り組みによって波及する内容）

- ・ 農家の有機野菜づくりが促進されるなど食材提供の安全・安心の向上
- ・ 村民の健康づくりへの寄与
- ・ 自治体が担う社会保険料の負担軽減
- ・ 都市部に日本で最も美しい村連合の活動への理解者が増大

《本事業を踏まえた次段階の取り組み》

本事業修了後、NPO法人「日本で最も美しい村」連合が抱える諸課題を解消するため、引き続き、様々な展開を行っていく予定である。

【本事業の発展型】

- ◎ リーディングモデル地域の活動を深化させることにより、連合に加盟する他の地域にとってのパイロットとしての役割を強化する。
- ◎ リーディングモデル地域以外の加盟地域（36 地域）への展開を促進する。
- ◎ 今後、新規に加盟する地域に対しても、「美しい村連合ネットワークシステム（ヘルスツーリズム開発システム）」を適用することにより、開発費用対効果を高める。
- ◎ 「美しい村連合ネットワークシステム（ヘルスツーリズム開発システム）」を応用して、様々なツーリズムの形態を誘発する。

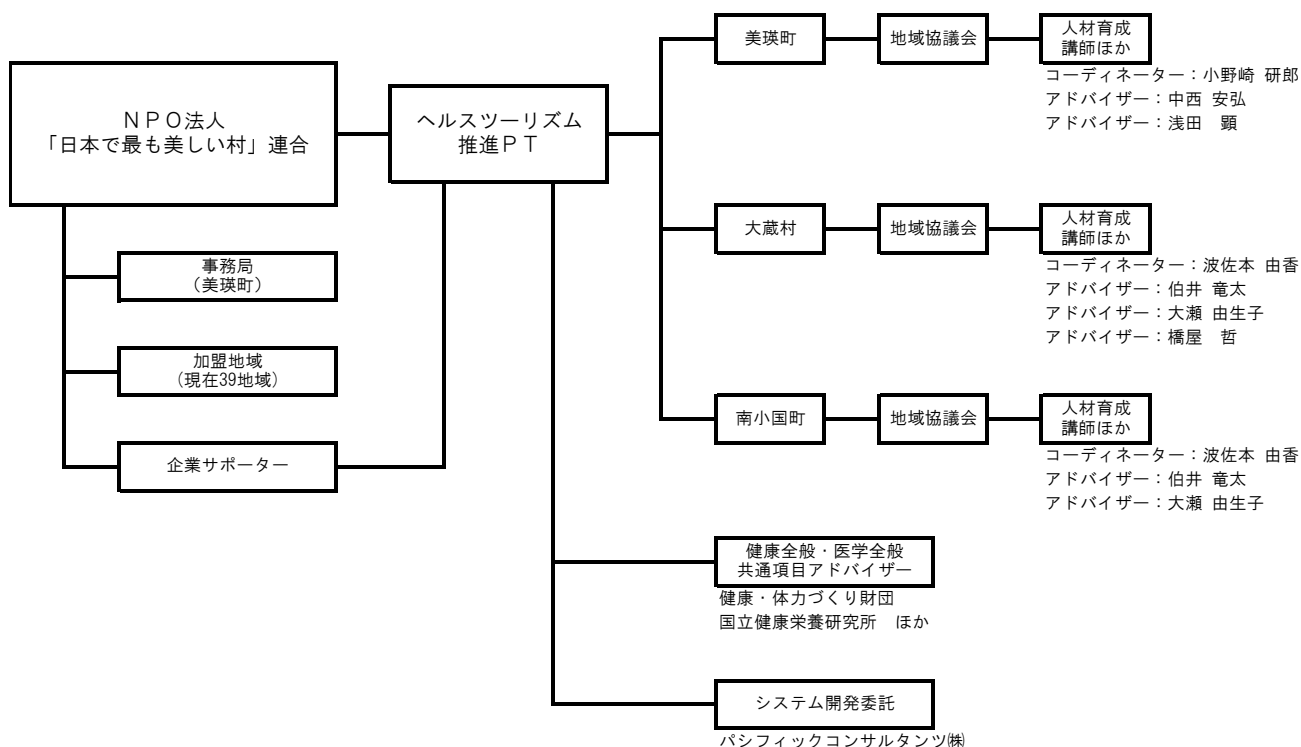
【本事業の応用型】

- ◎ 今後、連合のホームページを多言語化させることにより、日本で最も美しい村に対する国際的な関心の喚起、インバウンドへの対応を進める。
- ◎ インバウンドが進む中で、全国の美しい村でクレジットカードが活用しやすくなる仕組みを検討する。
- ◎ 日本で最も美しい村の担い手として、「（仮称）美しい村カレッジ」のような仕組みを構築しながら、加盟地域の発展に寄与できる人材を育成していく。

Ⅲ 実施体制

1 実施体制

ヘルスツーリズム推進プロジェクト運営体制図



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	NPO 法人「日本で最も美しい村」連合	理事会による意思決定 全体統括
2	美しい村ヘルスツーリズム推進PT	美しい村連合での ICT 利活用の総合マネジメントを実施 情報システム構築のマネジメント
3	美瑛町協議会（美瑛町 政策調整室）	地域プログラム開発に係る総合調整と総合運営
4	大蔵村協議会（大蔵村 産業振興課）	地域プログラム開発に係る総合調整と総合運営
5	南小国町協議会（南小国町 総務課）	地域プログラム開発に係る総合調整と総合運営
6	アドバイザー	事業実施に関する助言・協力
7	委託先 パシフィックコンサルタンツ株式会社	システム設計・構築 地域プログラム開発・実証・現地指導 アドバイザーリーチームの調整 ほか

3 事業実施進行表

実施内容	2月	3月	4月	5月	6月	7月	以降
地域協議会等開催	△		△		△		
事務調整会議	△	△	△	△	△	△	
プログラム開発/実証方法の検討・決定	→	→					
人材育成		→	→	→	→	→	継続
プログラムの試行						→	継続
関連機器・設備、システムの検討・決定	→	→					
システム設計・構築			→	→	→	→	
関連機器・設備、システム等の調達			→				
システム稼働						→	継続
実績報告作成				→	→	→	

IV 本事業に関する周知・広報等

1. 本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] <http://unetsys.jp> [美しい村ネットワークシステム (UNS:Utsukushii-mura-Network-System)]

本事業により構築したウェブサイト



[2] <http://utsukushii-mura.jp> [美しい村公式 HP]

「日本で最も美しい村」連合のウェブサイト



2. メディア等での紹介

南小国町でのヘルスツーリズムのコンテンツ開発の取り組みが、『広報きよら』に3回にわたり掲載された。



11 広報きよら 2011.5



11 広報きよら 2011.8



23 広報きよら 2011.7

3. その他

事業の実施状況等の様子等について、写真、事業概要図を添付する。

連合全体の取り組みの様子



美瑛町の取り組みの様子



大蔵村の取り組みの様子



南小国町の取り組みの様子



V 事業による成果

1 事業による成果（アウトプット指標）

項 目	成果指数	成果指数に関する説明等	調査時期	結果についての分析等
(健康維持・促進)				
参加者数（医療機関、健診センター、医師、看護師、保健師、管理栄養士、介護施設、NPO 法人、薬局、健康食品店など）	8 名および 1 団体	アドバイザリーボードへの登録数でカウント	2011 年 7 月下旬	本事業で、ヘルスツーリズムに関する専門家の皆様による指導が実現した。これにより、「美しい村ならではのヘルスツーリズム」を定義することが出来た。
利用者登録数	44 人（UNS 登録人数：39 地域の自治体担当者等計）	ヘルスツーリズムの開発に関わってきた人材の延べ人数をカウント	2011 年 7 月下旬	1 地域あたり 16 人前後の参加によりヘルスツーリズムの開発に臨んだ。今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。
利用件数（相談件数、アクセス数、投稿数、施設利用回数、電子看板閲覧数など）	述べ 161 人のログイン ※UNS：美しい村ネットワークシステムのテスト運用期間（1 週間：7/15～7/21）の数値	ヘルスツーリズムのシステムの利用件数の把握	2011 年 7 月下旬	8 月以降の本運用においては各自治体担当者だけでなく、地元関係者にも公開していくため増加する見込み。
情報配信数（コンテンツ数、更新回数など）	3 件	ヘルスツーリズムのプログラム開発数	2011 年 7 月下旬	モデル 3 地域においてそれぞれプログラムを作成した。次年度以降他地域で展開することにより、プログラム数が増加する見込み。

項 目	成果指数	成果指数に関する説明等	調査時期	結果についての分析等
設置数（サイネージ、Kiosk 端末など）	10 台 (1 自治体のみ)	連合加盟地域（現在 39 地域） で 1 箇所以上の端末設置	2011 年 7 月下旬	現在の主な設置箇所は、地区公民、役場窓口等である。今後各自治体が可能な範囲で拡大する可能性がある。
設置網羅率（設置数/必要箇所）	2.6% ※アンケート回答 38 自治体のうち、 1 自治体のみ の設定であるため	設置数／連合加盟地域（現在 39 地域）	2011 年 7 月下旬	38 自治体のうち、1 自治体（10 台）のみの設置となっているため、全体では 2.6%の設置網羅率となった。今後各自治体が可能な範囲で拡大する可能性がある。
プログラム数	3 件	ヘルスツーリズムの開発数を カウント	2011 年 7 月下旬	モデル 3 地域においてそれぞれプログラムを作成した。次年度以降他地域で展開することにより、プログラム数が増加する見込み。
プログラム開催回数 （運動アクティビティなど）	313 回（38 自治体 平均 8.2 回）	連合加盟地域の年間イベント 開催数で把握	2011 年 7 月下旬	各自治体では、健康マラソン、駅伝大会、トライアスロンなど様々な運動アクティビティに関するイベントを実施しており、今後も継続していく見込み。
（地域活性化）				
参加者数（店舗、販売者、NPO 団体、その他支援団体など）	44 人（UNS 登録 人数：39 地域の自治体担当者等計）	ヘルスツーリズムの開発に関 わってきた人材の延べ人数を カウント	2011 年 7 月下旬	1 地域あたり 16 人前後の参加によりヘルスツーリズムの開発に臨んだ。今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。
利用者登録数（地域ポイントシステム参加者など）	44 人（UNS 登録 人数：39 地域の自治体担当者等計）	上記と同じ	2011 年 7 月下旬	1 地域あたり 16 人前後の参加によりヘルスツーリズムの開発に臨んだ。今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。

項 目	成果指数	成果指数に関する説明等	調査時期	結果についての分析等
利用件数（アクセス数、投稿数、公共交通機関利用回数など）	述べ 161 人のログイン 1 人あたりのログイン状況 2.2 回	ヘルスツーリズムのシステムの利用件数の把握	2011 年 7 月下旬	8 月以降の本運用においては各自治体担当者だけでなく、地元関係者にも公開していくため増加する見込み。
情報発信件数（コンテンツ数、更新回数、メール配信数など）	スレッド数 7 件、コメント数 10 件 ※UNS：美しい村ネットワークシステムのテスト運用期間（1 週間：7/15～7/21）の数値	メール・チャットなどの利用数でカウント	2011 年 7 月下旬	テスト運用期間（1 週間：7/15～7/21）の中で 7 つのスレッドが立てられ、それに対して 10 件のコメントが投稿された。 8 月以降の本運用においては各自治体担当者だけでなく、地元関係者にも公開していく予定のため増加する見込み。
広告収入額	640 万円(2010 年)	美しい村公式 HP のサポート企業からの会費	2011 年 7 月下旬	今後、「日本で最も美しい村」連合の取り組みが、日本・世界の各地域に波及していく中で、取り組みに理解・協賛するサポート数が増加する見込み。
(ICT 人材育成・活用雇用創出)				
参加者数（自治体、事業者、NPO 団体など）	44 人（UNS 登録人数：39 地域の自治体担当者等計）	ヘルスツーリズムの開発に関わってきた人材の延べ人数をカウント	2011 年 7 月下旬	今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。
利用者登録数	44 人（UNS 登録人数：39 地域の自治体担当者等計）	ヘルスツーリズムの開発に関わってきた人材の延べ人数をカウント	2011 年 7 月下旬	今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。
創出雇用件数（人数）	91 人	協議会参加者に関する事業体の雇用者数	2011 年 7 月下旬	今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。

項 目	成果指数	成果指数に関する説明等	調査時期	結果についての分析等
ICT 人材育成人数	44 人（UNS 登録人数：39 地域の自治体担当者等計）	ヘルスツーリズムのシステムの利用者数	2011 年 7 月下旬	今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。
プログラム数	3 件	ヘルスツーリズムの開発数をカウント	2011 年 7 月下旬	モデル 3 地域においてそれぞれプログラムを作成した。次年度以降他地域で展開することにより、プログラム数が増加する見込み。
プログラム開催回数（講演会、実地演習など）	102 回（38 自治体平均 2.7 回）	ICT 人材育成・活用雇用創出数をカウント	2011 年 7 月下旬	全ての地域が開催しているわけではなく、0 回と回答した自治体が 84%（34 自治体）にのぼり、地域によって実施状況にばらつきがあるが現状である。この点を改善していくことが今後の課題である。
《②事業個別に設定された指標》				
WEB 会議システムの参加者数	39 自治体	美しい村加盟自治体の参加数	2011 年 7 月下旬	今後、美しい村連合への新規加盟自治体が増加によって参加者数も増加していく見込み。
開発プログラムの改善の意見交換会	3 回以上（モデル 3 地域各 1 回以上実施）	毎年、1 年間の活動をふりかえる中で、ヘルスツーリズムなどの活動のふりかえりを行い、その後の活動の改善に活かす場を持つ。	2011 年 7 月下旬	今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。
再生可能エネルギーの施設設置数	184 施設（アンケート回答 38 自治体平均 4.8 施設）	小水力、太陽光など再生可能エネルギーの施設数	2011 年 7 月下旬	全施設のうち 82%が太陽光エネルギー（150 施設）を閉めている。加盟する地域の中の特性として、雪室、雪氷熱・雪冷房などの再生可能エネルギー施設がある点が特徴的である。

項 目	成果指数	成果指数に関する説明等	調査時期	結果についての分析等
ヘルスツーリズムの実施回数	3 件	ヘルスツーリズムの開発数	2011 年 7 月下旬	モデル 3 地域においてそれぞれプログラムを作成した。次年度以降他地域で展開することにより、プログラム数が増加する見込み。
ヘルスツーリズムの参加者数	47 人（モデル 3 地域計）	各プログラムの開発参加者	2011 年 7 月下旬	今後他地域でも進めていくことにより増加していく見込み。
e-learning の参加者数	44 人（39 自治体） ※述べ 161 人のログイン 1 人あたりのログイン状況 2.2 回	美しい村ネットワークシステム「e-learning」の参加者数	2011 年 7 月下旬	8 月以降の本運用においては各自治体担当者だけでなく、地元関係者にも公開していく予定のため増加する見込み。

2 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項 目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期	結果についての分析
（健康維持・促進）					
主観的健康度 向上率（実感） 【単独指標】	100%	開発したプログラムの感想、今後も参加していきたいか意向調査	主観的健康度向上率（実感）＝今後もプログラム作成に参加したいと回答した方/全回答者数	2011 年 7 月 下旬	全回答者が、今後もプログラム作成に参加したいと回答した。
（地域活性化）					
地 域 イ ベ ン ト ・ 交 流 件 数 【単独指標】	217 回（アンケート回答 34 自治体平均 6.4 回）	アンケート調査により、地域イベント数をカウント	全体件数＝A 地域イベント・交流件数＋B 地域イベント・交流件数＋・・・・（加盟地域の総和）	2011 年 7 月 下旬	各自治体では、地域資源を活かした特色ある地域ならではのイベントを実施しており、今後も継続していく見込み。
観光客の滞在 時間の増加	-0.01 日	宿泊数の把握	観光客の滞在時間の増加＝（今年の宿泊日数平均）－（前年の宿泊日数平均）	2011 年 7 月 下旬	1.22 泊（2009 年）、1.23 泊（2009 年）と微少傾向にある。
観光客の訪問 箇所数	6 箇所 （美瑛町 2 箇所） （大蔵村 2 箇所） （南小国町 2	訪問可能箇所の把握	訪問箇所数＝ヘルスツーリズムの各プログラムで設定した訪問箇所数×全プログラム数	2011 年 7 月 下旬	本事業で設定した訪問箇所は 6 箇所である。今後、他地域での実施により増加していく見込み。 （※本文箇所の定義は、〇〇温泉郷、〇〇棚田など 1 箇所で複数の施設・地点を含む。）

	箇所)				
観光収入	307 億円(2010 年推計) 321 億円(2009 年推計)	観光収入の把握	観光収入＝標準的宿泊 料金×係数(1.2)×年 間宿泊者数	2011 年 7 月 下旬	307 億円(2010 年)、321 億円(2009 年)と前年より 減少した。この点を改善していくことが今後の課題で ある。
訪問・観光客数 の増加率	2%減少 (2010 年:1,845) (2009 年:1,884) ※単位(万人)	訪問・観光客数の把握	観光客数の増加率＝前 年度観光客数／今年度 観光客数	2011 年 7 月 下旬	1,845 万人(2010 年)、1,884 万人(2009 年)と前年よ り減少した。この点を改善していくことが今後の課題 である。
農産品・特産品 の売上増加率	2%減少	農産品・特産品の売り 上げの把握	売上げ増加率＝前年度 第 1 次産業生産額／今 年度第 1 次産業生産額	2011 年 7 月 下旬	116,412 百万円(2010 年)、118,859 万円(2009 年) と前年より減少した。この点を改善していくことが今 後の課題である。
地場産業の雇 用増加率	3%減少	地場産業(ここでは第 一次産業とする)の雇 用者数を把握	地場産業の雇用増加率 ＝年年度雇用者数／今 年度雇用者数	2011 年 7 月 下旬	32,843 人(2010 年)、33,816 人(2009 年)と前年よ り減少した。この点を改善していくことが今後の課題 である。
(ICT 人材育成・活用雇用創出)					
雇用件数、就業 件数(人数)	2%減少 (H19:85,498) (H20:84,353) (H21:83,375) ※単位(人)	連合加盟地域の納税 義務者数の把握 ※統計でみる市区町 村のすがた 2009～ 2011	雇用者数＝A 地域の納 税義務者数+B 地域の 納税義務者数＋・・・ (加盟地域の総和) (※統計でみる市区町 村のすがたの調査項目	2011 年 7 月 下旬	年々減少傾向にある。この点を改善していくことが今 後の課題である。

			「納税義務者」の統計値を利用)		
雇用者・就労者数の所得増加率	2%減少 (H19:222,579) (H20:217,900) (H21:213,433) ※単位(百万円)	連合加盟地域の課税対象所得平均の把握 ※統計でみる市区町村のすがた 2009～2011	所得増加率＝(今年課税対象所得平均・前年課税対象所得平均)/前年課税対象所得平均 (※統計でみる市区町村のすがたの調査項目「課税対象所得」の統計値を利用)	2011 年 7 月下旬	年々減少傾向にある。この点を改善していくことが今後の課題である。
主観的理解度向上率(実感) 【単独指標】	100%	利用者意識の把握	主観的理解度向上率(実感)＝システム活用により情報共有・情報交換できた方/全回答者数	2011 年 7 月下旬	全回答者が、システム活用により情報共有・情報交換できたと回答した。
人口流出の減少率	16%抑制 (H19:-1,803) (H20:-1,700) (H21:-1,421) ※単位(人)	加盟各地域の人口統計を把握 ※統計でみる市区町村のすがた 2009～2011	減少率＝前年度流出率－今年度流出率 各年の人口流出率＝(転入者－転出者)/総人口 (※統計でみる市区町村のすがたの調査項目「転入者数」「転出者数」の統計値を利用)	2011 年 7 月下旬	人口流出数は抑制傾向にある。この点を維持できるかが課題である。

《②事業個別に設定された指標》					
各地域の美しい村づくり協議会の発足	3 協議会	加盟地域の住民や地域団体が主体となって形成する組織とする。	加盟地域に対して、それぞれ一つの協議会発足を目指す。 各加盟地域の協議会発足＝協議会／モデル3地域	2011 年 7 月 下旬	本事業のモデル3地域全部が協議会発足済みである。 （加盟地域全体に実施したアンケートから他地域において既に14地域が「日本で最も美しい村」に関する地域協議会を発足済みである。 地域協議会が発足していない自治体に今後の予定を確認したところ、既存の地域関係者との連携を基盤に協議会発足を目指す意欲的な回答が得られた。 そのため、今後増加していく見込みである。）
美しい村連合への個人会員の増大	333 人	連合の規約に基づく個人会員とする。	2010 年 11 月、2011 年 7 月の個人会員数の前後比較を行う	2011 年 7 月 下旬	今後、「日本で最も美しい村」連合の取り組みが、日本・世界の各地域に波及していく中で、取り組みに理解・応援・参加する個人会員が増加する見込み。
観光者の増加率、観光収入の増加率	【観光者】 2%減少 (2010年:1,845万人) (2009年:1,884万人) ※単位(万人) 【観光収入】 4%減少 (2010年:307億円) (2009年:321億円)	各加盟地域での観光統計データによる。	観光者の増加率、観光収入の増加率	2011 年 7 月 下旬	2010 年（平成 22 年）の対前年比でみると、観光客、観光収入ともにわずかに減少となった。 政治・経済などの社会的要因が考えられるが、連合事務局としてはこの数値を真摯に受け止め、増加に向けたアクションを起こすことが課題である。

	億円)				
各種メディアにおける美しい村関連の情報掲載の機会の増大	5 件	主に新聞や雑誌などへの掲載数とする。	メディア掲載数	2011 年 7 月下旬	今後、日本で最も美しい村ならではのヘルスツーリズムが横展開、深化していく中で、メディア掲載の機会も増大する見込み。
加盟地域と企業とのコラボレーションの機会の増大	コラボレーション機会指数：7.2	加盟地域数、サポータ企業数からコラボレーション機会指数を算出する。	コラボレーション機会指数は、設立当時の参加自治体×サポータ企業を1として、2010年11月、2011年7月の指数を算出し前後比較を行う。	2011 年 7 月下旬	設立当時 2006 年の加盟数 9×サポータ企業数 23=207 を 1 として（設立年は 2005 年 7 自治体から開始）2011 年のコラボレーション機会指数を算出すると 7.2 となり、コラボレーション機会は増加している。 今後、「日本で最も美しい村」連合の取り組みが、日本・世界の各地域に波及していく中で、取り組みに理解・応援・参加する自治体、サポータ企業が増加することで、コラボレーション機会指数も増加する見込み。

3 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	計測方法・出展等	調査時期	結果の分析（目標値の結果が大きい）
ICT 人材育成数 リーディングモデル地域 北海道美瑛町	15 名	25 名	美瑛町協議会においてヘルスツーリズムのコンテンツ開発に関与した人数を把握	平成 23 年 7 月末	当初予定の I C T 人材育成数 15 名よりも 25 名へと拡大することができた。地元においては、「サイクリング」をきっかけにしたヘルスツーリズムのコンテンツ開発に対する関心も高く、様々なステークホルダーを巻き込むことができた。今後、自転車以外のテーマでのコンテンツ開発を進めることで、さらに美瑛町における人材が拡大していく見込みである。
ICT 人材育成数 リーディングモデル地域 山形県大蔵村	15 名	19 名	大蔵村協議会においてヘルスツーリズムのコンテンツ開発に関与した人数を把握	平成 23 年 7 月末	当初予定の I C T 人材育成数 15 名よりも 19 名へと拡大することができた。地元においては、「現代版湯治」をきっかけにしたヘルスツーリズムのコンテンツ開発に対する関心も高く、肘折温泉組合を中心とする関係者を巻き込むことができた。今後は、温泉関係者以外に農家さんなども関わってもらえる取り組みにより、さらに大蔵村における人材が拡大していく見込みである。
ICT 人材育成数 リーディングモデル地域 熊本県南小国町	15 名	19 名	南小国町協議会においてヘルスツーリズムのコンテンツ開発に関与した人数を把握	平成 23 年 7 月末	当初予定の I C T 人材育成数 15 名よりも 19 名へと拡大することができた。地元においては、「食文化」をきっかけにしたヘルスツーリズムのコンテンツ開発に対する関心も高い。協議会レベルでの ICT 人材育成数は、19 名としたが、実際には、その 19 名が属している各組織にも働きかけが行われており、人材育成の側面では数値以上の人材が関与したことから波及効果が大きい地域であった。また、副次的効果として、協議会関係者のブランド形成に対する意識が大きく転換したことが上げられる。従来、南小国町にある『黒川温泉』が高級温泉地のブランドとして知られているところであり、黒川温泉のある南小国町は、あまり知られていなかった。今回、黒川温泉組合の若手が

					中心となって、南小国町の各種団体関係者と取り組んだところ、黒川温泉のブランド力を高めるには、南小国町のブランド力を同時に高める必然性が認識されたところである。今後、相互の連携によって、持続的発展性と内発的発展性のある地域づくりに取り組んでいくこととなった。
ICT 人材育成数 連合加盟地域	108 名	51 名	美しい村連合において ヘルスツーリズムのコン テンツ開発に関与し た人数を把握	平成 23 年 7 月末	企画段階では、事業立ち上げ時期や事業予算等から連合加盟地域全体で、ヘルスツーリズムの立ち上げプロセスにまで踏み込む予定であった。事業採択段階での各種制約条件から、まずは連合加盟地域の担当者から取り組むこととした。その結果、初期段階で 51 名の関係者に本プログラムを共有することができた。平成 23 年度以降、美しい村ネットワークシステム（UNS）の稼働に伴い、着実に増加が期待される。
健康プログラムの構築	3 プログラム	3 プログラム	各協議会で取り組んでいるプログラムの実数を把握	平成 23 年 7 月末	事業期間中は、まずリーディングモデル地域でのプログラム着手を目指した。報告書内でも示したように、それぞれの地域で精力的に取り組んでおり、現在 3 プログラムの開発が進行中である。